

最終更新日	2016年(平成28年)4月1日
-------	------------------

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
--------	-------	------------

2016年度(平成28年度)学校評価自己評価表

I 福山市のめざす子ども像

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 前年度の学校関係者評価を踏まえた改善点

学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。しかし、「分かる授業の創造」「家庭学習習慣の定着」「あいさつ」「地域貢献」の目標が達成できていない。校内研修での指導法の工夫改善、各学年での取組の工夫改善を図り、取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。

III 中学校区

1 めざす子ども像

じっくり考え、はっきり表現し、くり返し粘り強く挑戦する児童・生徒

2 研究主題及び主な研究内容

小中一貫教育による主体的な学びの創造

- ・児童生徒に育みたい資質、能力を明確にした授業実践、交流

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒

○広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果、城北中学校区は、概ね県平均を上回っているが、小学校、中学校とも、領域別では、国語の書くこと、算数・数学の図形、理科のエネルギー領域に課題がある。

○家庭学習頑張り週間を設け、振り返りをさせたり自主学習を進んでできるように手だてをしたりしたことで、家庭学習に取り組む時間が増えてきている。

○毎月1回、あいさつデーとして児童生徒が中心となりあいさつ運動に取り組むことで、あいさつをする児童生徒が増えてきた。「自分からすすんで挨拶する」「大きな声であいさつする」ことが課題である。

○地域行事へ参加しようとする意欲は向上してきているが、参加率が十分ではない。目的意識を持たせるとともに、地域との連携を一層進めていく必要がある。

(2) 授業

○校区合同研修会を中心に教科指導の系統性を意識しながら教材研究を深め、授業を参観し合い協議することで学力向上に向けた取組みが進んでいる。

○児童、生徒の丁寧な学力分析を行い、指導案等においてつけるべき能力育成の視点から授業を組み立てる等、つけるべき資質・能力育成に向けて更なる授業研究を進める必要がある。

IV 自校

1 学校経営方針

(1) 学校教育目標

自ら学び、豊かな心でたくましく生きる子どもの育成

(2) 自校の使命(ミッション)

夢を持ち、その夢を実現することを通して社会に貢献できる児童の育成

(3) 自校の将来像(ビジョン)

- ①基礎基本の学力を身につけ、自ら学び考える児童を育成する学校
- ②自他を大切にし、ルールを守って安心して自分の力が発揮できる学校
- ③掃除が行き届き、きれいで落ち着いた学校
- ④家庭、地域とともに歩み、信頼される学校

2 研究主題及び主な研究内容

ともに考え、学び合う授業の創造

～J(じっくり考える)H(はっきり表現する)K(くり返し挑戦する)をふまえて～

- ・自分の考えを持ち、学び続ける児童を育てる授業の創造(社会)
- ・コミュニケーション能力の素地を養う授業の創造(外国語活動)

3 現状(成果及び課題)

(1) 児童生徒

・全国学力学習状況調査では、県平均を上回ったが、「基礎・基本」定着状況調査では、県平均に達しておらず、基礎基本の学力が確実に定着できていない。

・学校の約束を守る、無言清掃の達成率は91%であるが、「あいさつ」「無言清掃」の取組を充実させ、徹底させていく必要がある。

・地域へのやさしい行動、ボランティアは、高学年は目標を達成できたが、低学年が達成できていない。地域行事への積極的な参加を意識づけていくことが課題である。

(2) 授業

・授業の始まり5分間を工夫した授業作りを意識して進めることができるようになってきた。しかし、つけるべき資質、能力を明確にした授業作りや導入から振り返りまでの45分間を見通した授業づくりが課題であり、日常的に授業改善を図る必要がある。

4 めざす授業の姿

- ・ねらいが明確で、45分間を見通した授業
- ・全ての児童が、振り返りを書き、次時の見通しが持てる授業
- ・全ての児童が、一日に1回は、自分の思いを発言できる授業

V 目標・取組・評価指標等の設定と評価

市重点 目標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	10月1日	尤也 評価	達成 評価	2月末	尤也 評価	達成 評価	総合評価
								□指標にかかる取組状況 ◎改善方策		□指標にかかる取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況 ◎改善方策				
確かな学力	1	基礎基本の定着と主体的な学びの育成	☆	新規	① 授業改善を図り、基礎基本の学力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な授業づくり研修会を実施する。(導入, ねらい, 主発問, 振り返り)(年3回以上) スキルタイムで, 漢字・計算問題に取り組む。 	国語, 算数の単元テストの通過率を, 90%以上にする。							
					② 家庭学習習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習がんばり週間を実施する。(年5回) 家庭学習の手引, 自主勉強のすすめ, がんばりカードの活用 	設定時間以上家庭学習する児童を90%以上にする。							
豊かな心	1	主体性の育成	☆	見直し	③ 規範意識を育て, 積極的なあいさつができる児童にする。	児童会目標の設定と振り返りカードの活用を行う。(毎月)	学校のルール(あすなろ)を守っている児童を90%以上にする。							
				見直し	④ 主体的に考え行動できる児童にする。	縦割り班掃除を実施する。(振り返りカード)	黙って時間いっぱい掃除ができる児童を90%以上にする。							
				見直し	⑤ 進んでやさしい行動ができる児童にする。	やさしさ貯金を実施する。(ボランティア, 地域行事への参加)	地域行事に1回以上参加する児童を90%以上にする。							

健康かな体	1	たくましく生きる体力向上の推進	新規	⑥ 目標をもって体力づくりができる児童にする。	朝体育を実施する。学年重点目標を設定し、課題改善に取り組む。	新体力テストにおいて、県平均を上回っている項目を70%以上にする。					
	力量あめ教職員	1	授業力の向上	☆ 新規	⑦ 自ら考え学ぶ授業を創造する。	つきたい力を明確にした授業実践を行う。	外国語活動、社会科を中心に、単元でつきたい力、本時のねらいを明確にした授業研究を行う。(100%)				
					授業評価シートにより授業分析を行う。	授業評価シートの肯定的評価を90%以上にする。					
頼むわの学校 市民からの信	1	地域から誇れる学校の推進	継続	⑧ 学校への信頼を向上させる。	学校、学級の取組み、児童の様子を発信する。 (学校便り、学級通信、家庭連携等)	保護者アンケートで、肯定的評価を90%以上にする。					

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決をあまり図ることができなかった
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決を図ることができなかった

[総合評価]

評価	基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった